

子どもがかかりやすい感染症一覧表（保存版）

下記の感染症は、子どもがかかりやすい病気です。医師により、下記の感染症と診断された場合は、学校保健安全法に基づいて出席停止となります。学校に必ずご連絡ください。

なお、登校するときには、**登校許可書などは不要ですが**、ご家庭だけで判断せず、**必ず医師より感染の恐れがない、登校してもよいと診断されてから**登校するようにしてください。学校内での感染拡大を防ぐために、ご協力よろしくお願いいたします。

病名	主要症状	感染経路	潜伏期間	感染期間	出席停止期間
インフルエンザ	高熱、全身倦怠、関節痛、筋肉痛、鼻・のど・気管支の炎症、咳、鼻水	飛沫感染 接触感染	1～4日	発熱後 3～4 日後をピークとして、7 日目ころまで	発症後 5 日を経過し、かつ、解熱後 2 日を経過するまで
百日咳	熱はでない、 がんで激しい咳 （コンコンと短く激しい咳が続く）	飛沫感染 接触感染	7～10日	咳が出現して 4 週間 目ころまで	特有の咳が消失するまで、または 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
麻疹 （はしか）	鼻汁、目やに、発熱、 発疹、くしゃみ、粘膜 のカタル症状	空気感染 飛沫感染	8～12日	発熱の出る 1～2 日 前から発疹がでた後 4 日目ころまで	解熱後 3 日を経過するまで
風疹 （三日はしか）	発熱（中程度）、発疹、 リンパ腺の腫れ、カタ ル症状は麻疹より軽い	飛沫感染 接触感染	16～18日	発疹のでる 7 日前か らでた後 14 日間	発疹が消えるまで
水痘 （みずぼうそう）	発熱（軽～中程度） 発疹→水疱→かさぶた	空気感染 飛沫感染 接触感染	14～16日	水疱の出る 1～2 日 前から、すべての発 疹がかさぶたになる まで	すべての発疹がかさぶたになるまで
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	発熱、耳の下からあご の下にかけての腫れと 圧痛（押すと痛む）	飛沫感染 接触感染	16～18日	耳下腺が腫れる 1～ 2 日前から腫れて 5 日目ころ 唾液中には、腫れる 7 日前から腫れた後 9 日目ころまで	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後、5 日を経過しかつ、全身状態が良好になるまで
咽頭結膜熱 （プール熱）	発熱、のどの痛み、目 やに、結膜の充血、涙	接触感染 （結膜） 飛沫感染	2～14日	ウイルスは初期数日 が最も多い	主な症状がなくなってから 2 日を経過するまで
流行性角結膜炎	軽熱、頭痛、全身倦怠、 結膜の充血、涙、目や に、まぶたの腫れ、4 日目ぐらいから瞳孔に 点状の混濁	接触感染 飛沫感染 （プール水・手指・ タオル等）	2～14日	ウイルスは初期数日 が最も多い	眼の症状が軽減してからも感染力の残る場合があり、医師において感染の恐れがないと認められるまで。登校を再開しても手洗いを励行。

病名	主要症状	感染経路	潜伏期間	感染期間	出席停止期間
急性出血性結膜炎	初期に激しい目の痛み、涙、目やに、まぶたの腫れ、球結膜の出血、	経口感染 飛沫感染 接触感染	1～3日	ウイルスは呼吸器からは 1～2 週間、便からは数週間～数か月排出される	眼の症状が軽減してからも感染力の残る場合があり、医師において感染の恐れがないと認められるまで。登校を再開しても手洗いを励行。
A群溶血性連鎖球菌感染症 （溶連菌感染症）	発熱、のどの痛み、扁桃腺の肥大、いちご舌、 発疹、頸部リンパ節炎、 腹痛、下痢、嘔吐など	飛沫感染 接触感染	2～5日	抗菌薬を使用しない限りは感染力あり	適切な抗菌剤治療開始後、 24 時間を経て、全身症状が良ければ登校可能
手足口病	軽熱 手・足・口に紅斑→水疱 （口の中に痛み）	経口感染 飛沫感染 接触感染	3～6日	ウイルスは呼吸器からは 1～2 週間、便からは数週間～数か月排出される	全身状態が安定している場合は登校可能。ただし手洗いの励行（特に排便後）が重要
ヘルパンギーナ	突発的な発熱と口の中に水疱 夏～初夏に流行	経口感染 飛沫感染 接触感染	3～6日	ウイルスは呼吸器からは 1～2 週間、便からは数週間～数か月排出される	全身状態が安定している場合は登校可能。ただし手洗いの励行（特に排便後）が重要
伝染性紅斑 （りんご病）	顔面紅斑、特に頬部の紅斑性発疹	飛沫感染	4～14日	風邪症状出現から発疹が出現するまで	発しん期に感染力はないので、発しんのみで全身状態の良い者は登校可能
感染性胃腸炎 （流行性嘔吐下痢症）	下痢、嘔吐、発熱	経口感染 飛沫感染 接触感染	ロタウイルスは 1～3 日 ノロウイルスは 1 2～4 8 時間	急性期は最も感染力が強い 便中に 3 週間以上ウイルスが排出されることもある	下痢・嘔吐症状が軽減した後 全身状態の良い者は登校可能だが、排便後の始末、手洗いの励行は重要
マイコプラズマ肺炎	倦怠感、頭痛、発熱、 咳	飛沫感染	2～3週間	肺炎が持続している間	症状が改善し、全身状態の良い者は登校可能
伝染性膿痂疹 （とびひ）	米粒大から豆粒大の水疱→化膿、分泌物から発疹	接触感染	2～10日	水疱消失まで	出席停止の必要はないが、炎症症状の強い場合や、化膿した部位が広い場合は傷に直接触らないようにする